

丸森町 丸森町立館矢間小学校（総合的な学習の時間）「干し柿を販売しよう」

○市町名 丸森町
○学校名 丸森町立館矢間小学校
○期 日 令和7年11月21日（金）
○内 容 総合的な学習の時間（5年）
「Dream Baton Project

～仙台駅で干し柿を販売しよう～

一つの通学区に再編された三つの地区のそれぞれの良さや人々の願いに思いを馳せながら、地域との関わりを通して、子供たちの地域に対する愛着や誇りを育む。

- ・丸森町で生きがいをもって働く人（先輩）がいることを知り、様々な立場の人々が連携・協力して丸森の伝統産業の発展に努めていることを理解している。
- ・販売に向けた干し柿づくりを行うにあたり、実現までの見通しを持っている。
- ・干し柿販売を目指して、自ら積極的に皮むき作業を行い、友達と協働して活動しようとしている。

○活動支援者

- ・柿農家
佐藤 静男 氏
(柿提供・柿畠除草・消毒散布体験・講師・柿収穫協力)
- 鈴木 舞香 氏
(柿畠除草・消毒散布・体験講師・柿収穫協力)
- 八島 健 氏
(干し柿づくり講師)
- 齋藤 達也 氏
(干し柿づくり講師)
- 草刈 直也 氏
(干し柿づくり・袋詰め講師)
- ・いなか道の駅やしまや
八島 哲郎 氏
(販売の心得・方法に関する講師)
- ・JR 東日本グループ JR 東日本東北総合サービス（株）
(販売場所提供的)
- ・保護者ボランティア
(袋詰め・販売見守り)

- ・宮城教育大学 准教授 三谷 高史 氏
- ・宮城教育大学3年生 6名
(柿畠除草・消毒散布体験支援・干し柿づくり・販売見守り)
- ・丸森町商工観光課
(法被・パンフレット・のぼり一式)



○児童の声

- ・今回、熊対策のため、柿畠に収穫に行けなかったけれど、静男さんや鈴木さん、草刈先生たちが代わりに千個以上取ってくれました。一つ一つの柿が大きくてびっくりしました。ていねいに干し柿を作りたいと思います。
- ・柿の皮のむき方を八島健さんに教えていただきました。最初は難しくてうまくむけなかつたけれど、だんだん速くむけるようになりました。千個以上みんなでむくことができてうれしかったです。
- ・いろんな先生がぼくたちの手伝いをしてくれて、「速いね」「自分たちでどんどん動いてすごいね」とほめてもらえてうれしかったです。次は、柿を売るのをがんばります。
- ・干し柿づくりでがんばったことは、柿のへたにひもを通す作業です。ひもを通すとき、柿にへたがないものもあったけれど、へたの代

わりになる金具を付けることが分かり、これまでの知恵や工夫で干し柿づくりが行われていることが分かりました。

- ・燻蒸した柿を干す作業をがんばりました。柿を干場に持っていくのが重たくて大変でしたが、落とさずにできて良かったです。みんなで協力して干し柿を作れて楽しかったです。



○活動支援者から

- ・私が小さい頃、当たり前だった子供の声が聞こえなくなった耕野地区。幸いに私はこの体験学習を通じ子供たちの元気に新鮮さと懐かしさを感じています。食料生産が難しくなっているこの時代、体験学習等で少しでも農業というものに興味を持ってもらえた幸いです。

(佐藤 静男)

- ・先日の干し柿づくりでは、ここ数年一緒に柿むきをしておりますが、子供たちの皮むきのやる気を改めて感じました。柿の皮を残さないようにと注意しましたが、干し上がりを見ればわかると思います。耕野小から館矢間小

になっても伝統の干し柿づくりをこれからも続けられたらと思います。できるうちはお手伝いしたいと思います。

(八島 健)

- ・9月の柿畠での体験活動では、消毒機や草刈り機に強い興味を示し、試乗体験をとても楽しんでいました。実際に乗った子供に話を聞くと、「楽しかった」「もう一回乗りたい」と言った声が多く聞かれ、乗る前と乗った後では表情が大きく変わっていました。大きな機械を使って柿を栽培する様子に関心を寄せている姿が印象的でした。

(宮城教育大学 学生)

- ・柿の皮をむいたり、柿を紐につけて吊るしたりする作業を手伝いました。柿むきの場面では、どのようにむけばきれいにできるかを班の友達と相談しながら取り組む姿が印象的でした。つるす作業は、初めは難しそうでしたが、声を掛け合って協力して、多くの柿を吊るすことができ、子供たちは達成感を味わっていました。

(宮城教育大学 学生)

○教職員の声

本校の学校教育目標は、「ふるさとを愛し 夢と希望を持って自ら学ぶ 心豊かでしなやかな児童の育成」です。子供たちが地域の方の思いを聞いたり、一緒に活動したりすることで、「ふるさと丸森」の良さに気付き、自分が今できることを主体的に考えることができます。加えて、多くの方のご尽力の上に、自分たちが販売できる喜びと感謝が湧き上がっている子供たちの姿が見られます。その思いが地域の魅力を発信する原動力となっています。

今年は、再編前の旧耕野小学校の思いを受け継ぎ、4年ぶりに令和8年1月23日(金)に仙台駅東西自由通路で干し柿の販売します。

活動を支援してくださる全ての皆様のおかげで子供たちが「実感」をとおして、学びを深める機会をいただいていることに心より感謝申し上げます。

(千葉 織江)

